

# 光星 行進練習力強く

## 夏の甲子園きょう開幕

第98回全国高校野球選手権が7日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開幕する。開会式は午前9時から行い、前年度優勝校・東海大相模(神奈川県)の吉村選手が、出場する49校が南から北の順に行進。本県代表・八戸学院光星は47番目に登場する。

6日午前は同球場で開会式のリハーサルを行って、八戸学院光星は47番目に登場する。開会式は午前9時から行い、前年度優勝校・東海大相模(神奈川県)の吉村選手が、出場する49校が南から北の順に行進。本県代表・八戸学院光星は47番目に登場する。

6日午前は同球場で開会式のリハーサルを行って、八戸学院光星は47番目に登場する。開会式は午前9時から行い、前年度優勝校・東海大相模(神奈川県)の吉村選手が、出場する49校が南から北の順に行進。本県代表・八戸学院光星は47番目に登場する。

ちへのメッセージも込めた内容で2分近い長めの宣誓。「本番は人がいっぱい入るので、落ちないようにしたい」と気を引き締めていた。

春夏連覇へ「楽しむ」

○史上8校目の春夏連覇を目指す習井学園(奈良)は苦戦が続いた地方大会を経て、晴れの



舞台に戻ってきた。リハ入場行進の練習を行っていた。初戦は開幕日の第2試合(出雲(島根)と対戦する。小坂監督は「地方大会はプレッシャーで野球が楽しくなかった。甲子園では思い切り楽しみたい」と意気込みをのぞかせた。

### 力を100%出したい 主戦平林 出来が鍵

市本監督 崎本監督

2年ぶり8回目出場の八戸学院光星は、初戦で39年ぶり2回目出場の地元市本監督(兵庫)と激突。同校は県大会で、センバツ出場の前年の報徳学園を破るなど勢いに乗っている。主戦平林は57回を投げ失点と不安感がある。チーム打率は2割3分7厘と高くないが、勝負強さがある。

八戸学院光星は県大会の全6試合一度もリードを許さず、うち5試合は6点差以上の快勝。機動力が新たな武器として加わり、課題だった「好機での一打」も出るようになった。主戦平林の投球が鍵を握る。

6日、開会式リハーサルが行われた阪神甲子園

9日・初戦激突両監督かく戦う

球壇で、八戸学院光星・仲井宗基監督と、市本監督・竹本修監督に話を聞いた。

仲井監督 平林投手を相手に守備力が高い。思いつく限りで、勢いがいい。投手は、平林投手をどう攻略するか。胸を借りるつもりで構い、いい勝負をしよう。

市本監督 ヒテオを見たら、平林投手は独特な球筋で強気な投球だった。そういう投球をさせないよう、プレッシャーをかけたい。

竹本監督 櫻井投手は落ちるボールがある。低めに手を出さず、直球に振り負けないようにしたい。

**光星 甲子園だより**

小柄ながら、フルスイングが持ち味の愛称「じーつー」。自分が試合に出るとしたら代打。しっかり1球で仕留めた

**フルスイング持ち味**

い」と意気込む。昨秋の新チーム発足時から、緩い球をレフト方向に力強くはね返す自主練習を欠かさず続け「今ではやらない」と意気込みを語る。変化球への対応力も増し、「甲子園で1本打ちたい」と、センバツでかなわなかった聖地の安打を夢見る。

(大阪府・庭澤中出身 170センチ、71キロ、右投げ左打ち)